



池田小

地域と連携強化を

校長、住民ら運営巡り初会議

池田町の児童生徒の保護者や教員、地域住民の連携を強化し、学校運営について意見を交わす子育て教育向上委員会「まゝるいテーブル会議」が6日夜、同町能楽の里文化交流会館で開かれた。池田小中の教職員と保護者、児童生徒を対象に……

池田小の体験学習などのあり方を話し合った会議。6日、池田町能楽の里文化交流会館

した6月のアンケート結果などを基に、小学校のPTA役員、住民ら11人で構成する会合には10人地域と進める体験学習や親子ふれあいセミナーのあり方を議題とした。同会議で池田小について話し合ったのは初めて。内藤徳博教育長、校長、野菜栽培の体験学習、登校で行っている米作りや山や川下りのふれあいセミナーについて「地域との関わりをもっと増やして」「子どもが感動することが大切」といった意見が出された。池田中に開く同会議は4日に初会合を開き、少子化で団体競技を中心に部活動の存続が難しくなる中、望ましいあり方を話し合ったという。両会議で出た意見は、来年度以降の学校運営に反映させる。

(中坪佑香)

「まゝるいテーブル会議」が設立するきっかけとなったのは、昨年3月に発生した池田中生の飛び降り自殺。教員の厳しい指導叱責を苦にしたとする調査委員の報告書など一連の事態は、町民だけでなく

取材ノート

県全体に大きな衝撃をもたらした。以降、町は「教育行政の推進と信頼回復に臨む」として、教育大綱の改定を前倒しして検討。教育環境向上化プランに基づき各種取り組みを進め

会議非公開 考え方に疑問

目指すところは、小規模な地域の利点を生かした家庭、学校、社会の連携。地域に開かれた教育現場にしたいとの狙いがあると思っていた。ところが、町と町教委が開く種々の会合は冒頭を除き報道に非公開。池田中に関する「テーブル会議」は、報道各社への連絡もなく終わっていた。自由な意見交換を促すためというが、本当にそうだろうか。会合の様子を広く知ってもらい、町民全体が教育への関心を高め、課題を共有する方が、子どもたちにとってより良い教育に近づけるのでは。

(中坪)